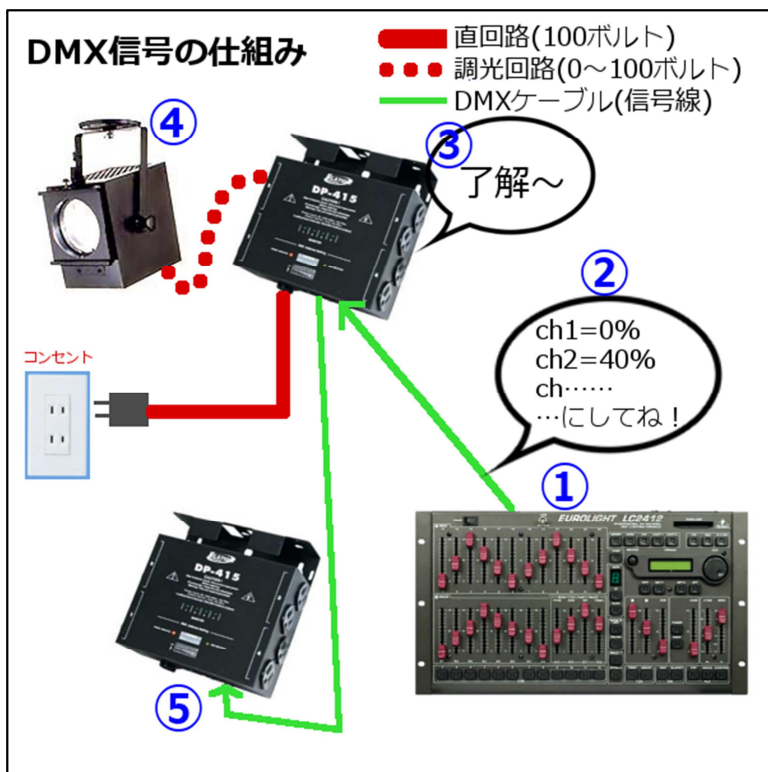


DMX 信号を使うメリット

現在の舞台照明の操作には、「DMX512」と呼ばれるデジタル信号が使われていますが、この信号を使うことでどのようなメリットがあるのでしょうか？

まずは、DMX 信号の仕組みをおさらい

- ①調光卓は、フェーダーの状態を読み取って、「何ch(チャンネル)目の明るさを〇〇にしてくれ」という命令を送り続けます。この命令信号を「DMX 信号」と呼びます。
- ②調光卓から出された命令信号(DMX 信号)は、「DMX ケーブル」と呼ばれるケーブル(信号線)を通じて送られます。このケーブルは 50m 程度までなら延長できます。
- ③調光ユニットは、その命令信号(DMX 信号)を受け取って、命令に従って電圧を変化させます。
- ④電圧が変化することにより、灯体の明るさが変わります。
- ⑤また、調光ユニットは自分が受け取った命令と同じ命令を再送信します。これにより、いくつもの調光ユニットを「数珠繋ぎ」にして使うことができます。



DMX 機材を使うメリット

①規模や好みに応じて様々な調光卓が使える!



②DMXケーブルを延長すれば、遠くからオペ可能!



DMX 信号を出すことができさえすれば、どんな調光卓を使っても構いません。

(6ch しか使えない小規模調光卓でもよいし、300ch ある大規模調光卓でもよいです。出ている信号は同じですから。)

調光卓と調光ユニットとの間は細い信号線 1 本で繋がっているだけなので、好きな位置に調光卓を置けます。DMX ケーブルは、50m 程度までなら延長可能です。

③調光ユニットも、規模や好みによって選べる！



DMX 信号に対応してさえいれば、どんな調光ユニットを使っても構いません。

大劇場では数百 ch あるような、部屋一杯使う調光ユニットを使います。

④壊れたら、壊れた部分だけ買い換えられる！



フェーダーの調子が悪ければ調光卓だけを買いかえればよいし、ユニットが故障したらユニットだけを買いかえれば済みます。

→年間予算が少なく、「丸ごと買い換え」ができない高校演劇部などには朗報です。

⑤調光ユニット以外にも DMX 対応機材はたくさんある！



「DMX 信号を受けて、電圧を変化させ、明るさを変える」のが調光ユニット。例えば他には「DMX 信号を受けて、スモークを出す量を変える」スモークマシンなどもあります。

DMX 機材の価格帯

いくら性能が良くても、気になるのはお値段。高かったら導入できません。でも安心してください。DMX 機材は、高級品から低級品まで実にさまざまな価格帯の機種が発売されています。

プロが現場で使っても安心な高性能で安全性の高い製品はそれなりに値が張りますが、アマチュアでも簡単に買える、1万円台の調光卓や調光ユニットも販売されています。もちろん安物で壊れやすいのは事実ですが、1万円台の調光卓でもプログラムした明かりを自動再生できたりして、手が足りないフェーダー操作から解放されます。壊れやすいとは言っても、「買いなおせばいいや」と思える値段と性能だと思います。

DMX は完璧か？

ここまで DMX の良いところばかり紹介してきましたが、良いことばかりではありません。海外製品が多く日本語マニュアルが不足していたり、修理サポートが期待できなかつたり、「電気を扱う危険な分野だから、安物の海外製品は使いたくない！」という場合もあるでしょう。昔ながらの単純な調光卓で済む用途なら、その方が良い場合もあります。その辺りは、適材適所だと思います。